

実習棟の片付けに思う

事務長代理 藤原直之

生徒のみなさんもお存じのように、令和2年3月に、本校の総合技術科が閉科となりました。振り返ってみると、昭和23年（1948年）に玉野市立高等学校定時部（工業課程）として設立された本校（機械科・造船科 定員400名）は、途中、昭和52年（1977年）の造船科の廃止や平成15年（2003年）の機械科の廃止を経て、総合技術科が新設されましたが、工業系の学科としては、72年の歴史に幕を閉じることとなりました。

ちなみに、商業科は、昭和27年（1952年）に設置され、平成18年（2006年）に廃止となりました。現在、みなさんが学んでいる普通科は、平成15年に新設されましたが、同時に校名も「玉野備南高校」と改められ、本校が新たな方向へと歩み始めるきっかけとなりました。

実習棟には、加工したい金属素材を回転させ、円筒形状に削り出す旋盤、アルミやステンレスといった板金素材を切断するシャーリングマシン、複雑な金属加工ができるフライス盤やマシニングセンター、製図に使われるドラフター、そして、様々な種類の溶接機など、30種類以上の機器がありました。それから、過去に生徒たちが実習材料として使った金属類もかなりの量がありました。

使わなくなった実習棟の機器をどうするか、市の方向性が定まらないままに、1年が過ぎてしまいましたが、この度学校の裁量で撤去することとなりました。しかしながら、市費や県費で購入した機器ですので、簡単には処分できませんし、売却するにしても、入札といった公の方法でやるしかありません。おまけに、機器の数のあまりの多さと大量の金属、様々な種類の油…、それらを処分するための手順は複雑で、方向性が定まるまでにかかなりの時間と手間がかかりました。本校の歴史を背負ってきた機器類は、単なる金属として処分するのではなく、今後もどこかで使ってもらえるように、できるだけ機器として売れる可能性を探っていました。

そうした中、いろいろな方々の知恵と尽力のおかげで、撤去の方向性が定まり、1月の5～7日の3日間で、ようやく金属や機器類の撤去が終わりました。



（写真は、マシニングセンターの撤去）

こうした作業は、かつて三井造船の職人を養成するという、玉野市にとって重要な役割を担ってきた「備南高校」の歴史の幕を閉じるようで、たいへん寂しくもありましたが、生徒のみなさんが学校生活の向上のために有効に活用できる場にしたいという思いもあり、将来を見据えると楽しみでもありました。

現在、SHOPの「備南ファーム」で使う農業資材を置いたり、スチューデント・ガイドプログラムに関連した観光案内標識の製作に利用したりするなど、少しずつ実習棟を活用してくれ始めました。たいへん嬉しく思っています。今後も先生方といっしょに知恵を出し合って、実習棟を有効に活用していただきたいと思います。